

講評

第17回公共建築賞 中部地区審査委員会 委員長

名古屋工業大学大学院教授
加茂 紀和子



公共建築賞・
優秀賞
文化施設部門
(中部地区)

MIZKAN MUSEUM

ミツカングループの創業の地である半田運河周辺は市の景観形成重点地区として位置付けられている。旧工場等を含めた複数の建屋の移転跡地に建つ、その景観の特徴である黒壁（黒板囲い）と勾配屋根の連なりというデザインモチーフを継承した現代建築であるが、本施設建設のみならず隣接する本社棟、中間実験棟、倉庫等の保存再生を含めた全体の修景の再整備が行われ、景観形成地区の価値を高める要的存在となっている。

本施設は企業の博物館として醸造酢の歴史や製法を見せる体験型ミュージアムであり、その人気は高く、半田市の目玉の観光資源となっている。さらに、中庭の多様な使用方法を定例的に市と協議してさまざまなイベントを行うなど、積極的な地域社会への貢献がなされている。また、既存建物の古材、井戸水、太陽光等を積極的に活用し、運河からの自然風を取り込んで空調負荷の低減を図るといった省エネルギーの工夫もなされている。

以上から、この施設は民間企業によるものであるが、半田エリアの文化的、観光的拠点を創出している点、都市の活性化、サステナビリティという点からも、官公庁施設以上に公共的であり、優れた建築であるといえる。



公共建築賞・
優秀賞
文化施設部門
(中部地区)

穂の国とよはし芸術劇場 プラット

豊橋駅に直結する、市民のための芸術劇場である。PFI再開発事業であるが、事業と並行して展開されてきた「芸術文化活動を推進し、裾野を広げる」活動プログラムと建築計画を連動させ、その活動拠点到に求められる空間性を実現している。また、鉄道線路際の騒音や振動に対して適切な構造計画がなされ、外断熱構法によるPAL値の低減やシミュレーションによる居住域空調設

計等の合理的建築技術により、CASBEEあいちにおいてSランクの評価を受けている。

新幹線の停車駅ということもあり、全国からも、全国へもさまざまな演劇芸能、芸術が集まり、また発信されている。歌舞伎等の古典から現代劇まで、多様な演出の要望に応える舞台機能を持ち、普遍的な建築材料を用いながら、巧みな照明技術と共に高揚感のある空間をロー

コストで実現している。もちろんメンテナンス性も兼ね備え、長期間使用できる空間である。

日常的な文化施設での経験が人々の豊かな記憶となり、演劇への興味、創作への意欲とつながるものとなる。こうした役割をこの建築は担っており、地方の中核都市において活性化の核となる公共建築である。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(中部地区)

愛知学院大学名城公園キャンパス

政府の都市再生プロジェクトの国有地活用事業に指定された名城公園に隣接する立地を生かした大学キャンパス整備計画である。

施設は高層棟、講堂、大教室棟、図書館棟、食堂棟からなるが、名古屋市の高さ制限の緩和を受けるために敷地周辺は公開空地が設けられ、低層の施設は近隣住民に開放されて地域との親和が図られており、そこに都心の立地を生かして企業・行政・地域との連携を図るための地域連携センターを併設して、学生の地域参加にも積極的に取り組んでいる。

また、次世代エコキャンパスという理念の下、名古屋市内のクールスポットである名城公園が生み出す自然の涼風を巧みに利用し、地下にクール&ヒートピットを設けた地熱利用によって高度な省エネルギーを実現し、CO₂排出量49%カットを実現している。

現在、キャンパス拡張計画が継続中であるが、これまでマイナーであった地下鉄駅周辺のまちづくりの起爆剤として、都市再生を先導する優れた公共建築である。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(中部地区)

愛知県三河青い鳥医療療育センター

本施設は、障がいのある子どもたちへの医療と療育を提供する県立療育センターである。前身の肢体不自由児施設の著しい老朽化と、重症心身障がい児者のための療育施設の不足を受け、それらを統合した施設として岡崎中央総合公園隣接地へ移転新築されたものである。

全国でも例を見ない特殊なプログラムであるため、建築計画の難度は高いが、シンプルな動線計画と空間形態を持たせながらも、外来部門、リハビリ部門、病棟を適切に分節して、それぞれの部門諸室の機能的プランが実現されている。また、音環境への配慮がなされ、訓練用に設けられた回遊動線も設計の意図通りに利用されていることが確認できた。

病院・福祉施設の複合施設に求められる機能を十全に満たすとともに、入所者およびスタッフが日々過ごすための良質な空間が用意され、施設が担う公的サービスの

水準が高く保たれている。このような施設は今後、社会に多く求められるものと推測できるが、それらの参考となる優れた公共建築である。



地域特別賞

中部地区

掛川市中央消防署庁舎

掛川市の中心部に立地し、通信指令等の消防本部機能を併せ持つ拠点施設である。通常の消防署機能に加えて、災害時の活動をバックアップする非常電源の確保、水、食料、燃料等の備蓄、職員参集用の100台分の駐車場が配された高機能な施設である。

消防士の勤務環境は、充実した訓練場、緊急時の出動がスムーズであるように考慮された回遊動線はオリジナルな計画の工夫がみられる。

緊急車両16台が整列するワイドフロントで開放的なファサードは、まさに「地域に開かれた消防署」のシンボルとなっている。

地域社会への貢献としては、地元小中学生の見学受け入れ、体験学習、地域の防災リーダーの養成講座開催、消防フェアの開催などのさまざまな企画が展開できるように設えられている。

限られた設計期間でありながら、消防署側と設計者の

十分なコミュニケーションと協調関係の下で達成されたことや、旧庁舎の機能を維持しながらの改築は特筆すべき点である。

今後の公共建築のリニューアル事業の参考となる優良な建築である。



(受賞作品掲載は地区推薦順)